

# 目次

第1章 国際基督教大学における「質的調査法」(山口富子、中野佑一)	1
1. はじめに	1
2. ICUにおける質的調査法	2
2.1 カリキュラムの概要	2
2.2 授業の概要	2
2.3 教育の体制と受講生の特徴	4
3. ICUの質的調査法の特徴—アメリカの質的調査法のクラスの比較	5
3.1 概要	5
3.2 考察	6
3.2.1 どの技法を教えるのか	6
3.2.2 コーディングの手法	8
3.2.3 質的なデータ管理のコンピューター・プログラムについて	9
3.2.4 調査倫理、研究倫理の教育	9
4. ICUの質的調査法の特徴—日本の社会調査教育との比較	10
4.1 日本の社会調査教育	10
4.2 社会調査教育における「質的社会学分析」の位置づけ	11
4.3 教育と研究の一体化モデルと教育と研究の分離モデル	12
5. おわりに	13
第2章 質的調査法をどう教えるか—ICU「質的社会学分析」の実践紹介(川口遼、山口富子)	17
1. はじめに	17
2. 授業の構成とスケジュール	17
2.1 第1モジュール「発想の理解」	17
2.2 第2モジュール「技法の習得」	20
2.3 第3モジュール「データの収集」と第4モジュール「分析」	22
2.4 第5モジュール「研究結果のとりまとめ」	22
3. 実習の展開	23
3.1 テーマの設定とグループ作成	24
3.2 分析課題の設定と調査準備	24
3.3 インタビュー調査	26
3.4 分析と論文の執筆	28
4. おわりに	31
第3章 調査設計—履修生が直面する課題と教育スタッフによるファシリテーション(中野佑一)	33
1. はじめに	33
2. 授業が前提とする制約と教員・TAの協力体制	33
2.1 3つの制約:「時間の制約」「調査の制約」「教育スタッフにとっての制約」	34
2.2 教員とTAの協力体制	34
3. テーマの設定	35
3.1 テーマ設定に向けたクラスでの取り組み	35

3.2	社会調査におけるテーマの設定	37
3.3	社会学的な問いを立てる	40
4.	先行研究レビュー	43
4.1	研究の中心となる概念の定義	43
4.2	入門書・教科書を読んでテーマを設定する	44
5.	調査課題の構築に向けて	45
5.1	依頼状	45
5.2	質問リスト作成	47
5.3	調査計画書	48
6.	おわりに	50
第4章	「質的社会学分析」におけるグループワーク（今林寛之、川口遼）	52
1.	はじめに	52
2.	協同学習としてのグループワーク	53
3.	グループワークの5つの条件	54
3.1	互恵的な相互依存関係に向けたグループディスカッション	55
3.2	メンバーによる促進的相互交流	56
3.3	個人のアカウンタビリティの確立	59
3.4	協調	62
3.5	メンバーの評価	64
4.	まとめ	64
付録（中野佑一）		
1	誓約書	67
2	2012年度 質的社会学分析 受講者票	68
3	依頼状作成手続き	70
4	インタビュー調査のご協力をお願い	73
5	調査に関するQ&A	74
6	調査インストラクション	76
7	調査管理カード（および記入例）	83
8	質的社会学分析トランスクリプション・ルール	85
9	質的社会学分析 論文スタイルガイド	90
10	調査実習の沿革	101